# 米価下落と農家支援のあり方

## ～ 市議会の一般質問の要点と質疑応答 ～

## ① 米価下落の経緯・原因

新型コロナ感染拡大 → 外国人観光客 激減（インバウンド減少） → 外食産業の停滞

令和２年産米の在庫過剰 → **令和３年産米の概算金が大幅下落**

（例：つがるロマン、まっしぐら ▲3,400円／60kg）

## ② 農家の現状と課題

- 種子代、肥料代、燃料代などの生産経費が上昇
- 概算金が生産費を下回り赤字経営
- 今後の農家経営の維持に不安

## ③ 他市の支援状況（例：10アール当たり）

| 市町村 | 支援内容 | 支援額 |
|---|---|---|
| 五所川原市 | 赤字分4,000円＋資材増加分2,000円 | 6,000円 |
| 十和田市 | 赤字額の1/2を助成 | 5,800円 |
| つがる市 | 赤字額の1/2を助成 | 5,800円 |
| 黒石市 | 作付面積に応じて8段階 | （例）～6,000円 |

他市は、農家の経営安定と営農意欲の維持を図るため、直接給付の支援金を実施している。

## ④ 議員の主な要望（要望事項）

### ① 令和３年産米価下落に対する支援拡充

- ア 水稲種子購入費の助成を令和３年産米も対象にできないか。
- イ 他市と同様に、10アール当たりの赤字額の1/2を助成できないか。
- ウ 津軽みらい農協にも、概算金の追加払い（1俵600円）を要請できないか。

### ② 令和４年産米価下落対策

- ア 米の消費・販路拡大策の実施。
- イ 家庭・学校・保育園での食育推進。
- ウ 余剰在庫の縮小を農協に要望。
- エ 概算金が生産費を下回らないよう農協に要望。

## ⑤ 市の答弁（市長・経済部長の見解）

**市長**

- 種子助成は令和4年産米向け（令和3年産はJAが1/3助成済み）。
- 赤字相当額の直接支援（戸別補償）は、国の対策や構造的な需要減少を踏まえ、慎重に対応せざるを得ない。
- 概算金の追加払いは、農協の経営判断であり、市からの要請は困難。
- 米価下落は人口減少・食の多様化など構造的な問題。
- 大豆・飼料用米への転換、スマート農業、農地集約化などで経営の安定を図る。

**経済部長**

- 食育の推進（食育ソング・体操、学校・家庭での取組）。
- 米の消費拡大・販路拡大に取り組む（JAと連携）。
- 余剰在庫の縮小は、国の支援を活用し、販売計画が進行中。

## ⑥ 質疑応答のポイント

**議員**

米価下落はコロナによる需要急減が主因。
他市のように、少しでも支援金を拡充すべき。
国の交付金や県補助金、普通交付税を農家支援に活用できないのか。

**市長**

米価下落は構造的な需要減少も要因。
農家の経営形態も様々であり、全てに戸別補償を行うことは難しい。現行の支援に加え、消費拡大や転換支援など、持続的な対策に取り組む。

## ⑦ 今後の取組（市の方針）

- **消費拡大**：食育の推進（学校・家庭・地域）
- **販路拡大**：（JAと連携）
- **作付転換**：（大豆・飼料用米）
- **生産コスト低減**：（スマート農業・農地集約化・共同利用）

## ⑧ 議論のまとめ

農家の赤字と不安に対し、短期的な支援の拡充を求める議員と、構造的課題を踏まえ慎重な対応を示す市の考えが示されました。今後は、消費拡大と経営安定のための取組を進めつつ、支援のあり方を検討していくことが課題です。